

おいしさ（なす）

1

テーマの設定理由

「おいしい」とは何か？ということが「おいしい」と感じる事なのか。子どもが味わって食べるという経験を本当にしているのか？という問いから、子ども自身が「おいしさ」とは何かを探究する楽しさを知ってもらいたい。

2

準備物

- IH
- フライパン
- トング
- 包丁
- まな板
- バット
- 塗り絵「なす」
- マッキー
- マグネット
- 掲示ボード

3

食材

- 大長なす【熊本県】
- 白なす【長野県】
- 翡翠なす【茨城県】
- フェアリーテイル【栃木県】
- 油
- 塩



環境設定

1 導入

初めから現物のナスを見せるのではなく、塗り絵を使うことで子どもが“ナス”をイメージや想像できる時間を作る。そうすることで自分達の知識や経験から、主体的な言語表現が生まれるようにする。



環境設定

2 ナスの観察

ナスは参加している全ての子ども達が常に観察できるよう人数分用意する。

保育者からの問いかけでは「紫色だね」や「丸いね」などの断定的な言葉は最初は使わず「どんな色かな」「どんな形」などの「問いかけ」と子ども達からの表現を待つ“間”を大切に行う。



環境設定

3 変化の観察

クイズ形式で器具などの名前を問いかけていく事で言葉の育ちを促す。調理に使う包丁やIHとフライパンに関して「触らないで」と伝えるのではなく包丁や熱源の危険性を一緒に考えていく。調理前と調理後の変化を1人1人が感じられるように、フライパンに入った状態で子ども達に見せて周る。この際もう一度子ども達と熱源に触れるとどうなるかを一緒に考え、注意喚起を行う。3までに得た経験を元に「どれが1番美味しそうかアンケート」を行うことで、“味わう”という意識を持ってもらう。



環境設定

4 共食

大人も子どもも関係なく、1人の人間としての食べた感想をお互いに問いかけ「どうだった？」ながら共食する。

味わうために、全ての種類を一斉に配るのでなく1つずつ品種ごとに配布する。

アンケートをとり、想像やイメージと違ったのか同じだったのかなど言語表現を促す。



環境設定

5 活動後

活動が終わった後にすぐ行うことで、興味や探究を維持できる。

掲示や絵本なども用意することで活動がより深まる。

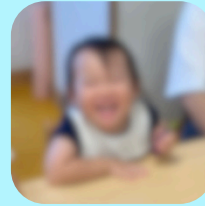
環境設定

子どもの姿

導入と観察



ナスと触れ合う前に「ナスって何色があるかな?」と聞いてみると、じっと考えてみる子どももいれば、他の野菜から連想したのか「みどり!」と言ってみたり、「あかかなあ?」と笑いながら自分のイメージを言ってみる姿がありました。色々なナスが登場すると、色に興味を持つ子どもが多く、白!みどり!と言ってみたり、ながいナスとの出会いでは驚きと、みたことのない長いナスに魅力を感じたのか、笑ったり手を伸ばしてみる様子があり、人気が高いようでした。丸々としたナスをみて、「ももみた〜い」と声が上がったり、緑のナスを「お父さん」白いナスを「お母さん」、むらさきの普通のナスを「これあかちゃん!」と言ってみる様子も。また、触れ合いながら「においする」と自分から匂いをかいてみたようと鼻を近づけ、真似た子どもも思っていたら匂いと違ったのか鼻を摘んだり、「おならみたいなおーい!」と嗅いだにおいを自分なりの言葉で表現してみる姿がありました。



ナスとしばらく触れあってみると、「ナスむきむきするの?」「どーやってむきむきする?」と大人に自分からきいてみる様子がありました。その発言から、ナスもむきむきしたいね、切ってみようか、と活動が流れていきます。紫、白、緑、とそれぞれのナスを切ってその都度中身を見せると…「しろー!」と声が上がります。はたまたその驚きをハッとした表情で表しながら、自分の中でじっくりとそれぞれの違いを味わう子どもの姿もありました。^ ^

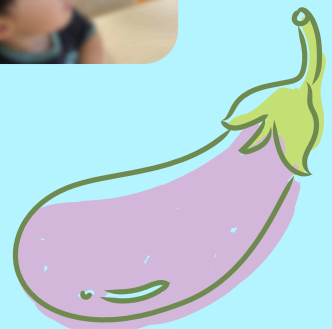
変化の観察



フライパンにナスを並べると、入れるたびに「はっ!」と息を呑むようなリアクションを楽しむ姿がありました。そら先生とのやりとりもすっかり慣れてきて、リラックスした子どもたちの姿があります。入れてもいい?というそら先生からの質問には、「いいよ!」「ナス、いいよ」と返したり、ジュ〜っと焼き音が聞こえてくると「ジュージュー、大きいの聞こえた!」と明るい表情になったり、フライパンの中身を見せてもらおうと、熱気を感じたのか「はるちゃんも焼けちゃいそう〜!」といいながら顔を押しさえて、お友達も真似して…と、それぞれ感じたことを表現しながら真似し合い、共感して楽しむ姿がありました。焼き色がついて、色が変わることに興味深々な子どもたち。じっとみつめてその様子を観察していました。



焼いてにおいが出てきたことを感じていました!あまり好きな香りではなかったのかな…?笑



共食



楽しみにしていた実食タイム！



焼いた後は食べる！と記憶していたのか、ある程度焼けたな〜と感じるとみんなより少し先に席に戻って楽しみに実食を待つ子どもの姿も。みんなで勢いよく食べ始めます。大人の声かけでフーフーと冷ましてみるも、あつかったのか一口食べて「あつい」と出して待ってみる姿もありました。食べてみると「おいしかった〜」という子どももいれば、「ちょっきんしてから、食べたいの！」という子ども、そして話ほしないものの黙々と食べておかわり！というようにお皿をスライドして渡そうとする様子もみられました。ナスの皮の部分を残して中の柔らかい部分を好んで食べる姿。おかわりでは全種類から食べたいものを選びます。人気なのは小さなナスでした。



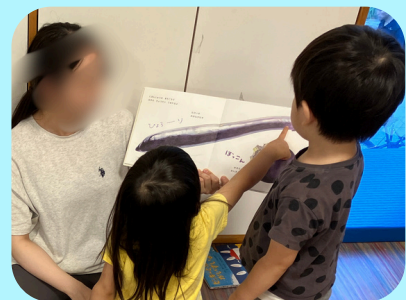
ひと口たべてみた後、じーっとナスを見つめるかいくん。小さいナスは好きだったようで、おかわりをもらいましたが、じっくり格闘中です。^^



活動後

しょうたくくんは、活動中に触った長いナスの絵をみつけて、おままごとゾーンの遊びをやめてゆびさしにやってきました。一緒に触ったはるきくんを呼んで、ニコニコ笑顔で体を揺らしていました。^^

ナスがたくさん出てくる絵本『つやっつやなす』を見つけた子どもたち。そんな様子からクラスの中で絵本の読み聞かせが始まりました。様々な種類のナスがでてくると、「なす！」と笑顔でゆびをさしたり、おままごとゾーンにあった野菜の中からナスを持ってきて、同じサイズのものを探してみたり…それぞれ活動で感じたこと思い出しながら、絵本の中のナスに興味津々な様子でした。やはり長いナスは子どもたちの記憶のなかでも印象深かったのか、長いナスが絵の中に出てくると、反応が大きくなったり遠くのゾーンから駆けつける姿もありました。^^



振り返り

保育者

⑨

気づき



先生コメント

活動にも慣れてきた様子の子どもたち。今回のナスに触ると前回までの記憶を思い出したのか、「(皮を)むきむきするの?」という言葉に、1回目の活動からアスパラガス、豆類、とうもろこし、と皮を剥く手順があったことをしっかり覚えていたのだな〜と驚かされました。

いいにおい!おいしい!などの言葉が続いていた今まででしたが、今回のナスはにおいを嗅いでみて、微妙なお顔…、そして「からかった。」と自分なりに好きではなかった、という気持ちを言葉に乗せてみる姿に、ありのままの野菜と触れ合っただけの自身の気持ちと、子どもたちそれぞれが真剣に向き合っているのだと思えた回でした。

また、回を重ねるごとに次は何をするのか、子どもたちのなかで見通しができているようです。ひとつひとつが新鮮だった活動から、少しずつ順序がわかるようになり、食材の変化にも着目して反応する姿がたくさん出てきました。そんな子どもたちそれぞれの気づきを、今後も観察しながら拾っていきたいです。

修行



先生コメント

なすの色を想像した時に、紫をイメージしていた子どもたち。新しい色のなすに出会い、切ったり焼いたりすると色や形が変化していくのを不思議そうに興味深そうにみていました。

いざ実食!口に入れてそれぞれのナスの味の違いに気付いているように感じました。苦手だった子どもも、「おいしい!」と。その後給食に出ていた味噌汁の中にも、ナスが入っていることに気づいて、友だちと分かち合う姿も。

新しい食材に、味覚、聴覚、視覚、触覚いろいろな感覚で感じ、それを友だちや保育者と共有しあっていく中で、食材への思いも深まっていくと感じます。

またこの機会を作り、食材との出会いを大切にしていきます。

倉片



先生コメント

今回の食材は「なす」でした!

そら先生を見つけると、「じゅーじゅー?」と言いながら嬉しそうに手を洗い、席に座る子供たちの姿はとても印象的でした。そら先生が来たら美味しいお野菜が食べられることがもうみんなばっちり分かっているようです!

大人でも苦手な人が多い野菜の一つである「なす」を、口に入れて「美味しい!」とにこにこ笑顔になる子どもいれば、「苦手だった!」と初めて感じる食感に不思議そうな顔を浮かべる子どもなど、表情が様々でとても面白かったです。

もちろん、たくさんの食材を食べられるようになることはとても良いことですが、自分の苦手な食材を知る事もとても大切なことだなと感じました。子ども達の挑戦する姿勢がとても素晴らしかったです。次回以降の活動が改めてとても楽しみになりました!

伊藤